

高短連携と高校生の進路選択の現状と課題

澁田 英敏 吉野 美智子

Current status of, and issues in course selection and high school students regarding cooperation between high school and junior collegee

Hidetoshi Shibuta and Michiko Yoshino

Using survey data on course selection after graduation whose subjects were senior high school students attending mock lesson at Kyushu Junior college of Kinki University for 5 years from 18th through 24th of *Hesei* period, we examined an association between their response and an actual course selection.

There was a significant difference between female and male students with respect to the proportion of students who advanced to university or junior college ($p < 0.001$). The proportion of students whose course selection after their graduation was a technical college (27.5%) was higher than national average (i.e., 17.0%) by 10.5%. Furthermore, of high school students who selected “others” as their course selection after graduation, many of them could not decide their courses after their graduation. Since half of them (50.0%) went to a technical college /polytechnic, and more than quarter of them (27.3%) went a university, its necessity to have intensive aggressive counseling for the choice of their future course.

Keyword: course selection among high school students, cooperation between high school and junior college

1 はじめに

本学では、平成14年度より近隣の高等学校と連携し（以下、高短連携）、在籍する高校生に対して短期大学における授業を行ってきた（以下、体験学習）。平成25年度までに約1,800名の高校生に体験学習を実施してきたが、本稿では、平成18年度から平成24年度までの5年間に体験学習に参加した高校生のアンケート結果を踏まえ、高校生の進路選択について検証する。

2 方法

平成 18 年 6 月から平成 24 年 6 月までに体験学習で来学した高校 3 年生 1,141 名に対して、アンケートを実施した。欠損値を除く 954 名を母集団として集計し、卒業後の進路に関する追跡調査を行った。

3 結果

高校生の進路先の集計結果は、表 1 に示すとおりである。4 年制大学（以下、大学）への進学者が 392 名と最も多く、以下、専門学校 262 名、短期大学 159 名、就職 106 名、その他 35 名の順となっている。文部科学省による平成 25 年度学校基本調査（速報値）と比較すると、大学と就職については低く、短期大学、専門学校への進学者数は高い比率となっている。

	大学	短大	専門学校	就職	その他	計
体験学習参加者	392 41.1%	159 16.7%	262 27.5%	106 11.1%	35 3.7%	954 100.0%
学校基本調査	47.4%	5.4%	17.0%	16.9%	13.3%	100.0%

進路別に女子の占める割合を表 2 に示す。全数（954 名）に対する女子の割合（50.2%）と比較すると、短期大学へ進学した女子の割合は 89.2% と大きくなっていった。表 3 に男女別の進学者数を示した。大学進学者、短期大学進学者については、男女間で有意な差が見られた（ $\chi^2 = 86.4$, $\chi^2 = 112.4$, $p < 0.001$ ）。

大学	短大	専門学校	就職	その他	計
125	140	143	53	15	476
32.0%	89.2%	54.8%	50.0%	44.1%	50.2%

体験学習を受けた高校 3 年次の 6 月に把握した希望進路と卒業後進路のクロス集計を表 4 に示した。希望進路は複数回答のため、総計は実数とは異なっている。表 5 には、希望進路に対する実際の進路先の割合を示している。高校 3 年次に希望した進路と変更なく、そのまま進路先とした者の割合は大学（78.6%）、短期大学（71.3%）、専門学校（64.3%）、就職（53.1%）であった。また、高校 3 年次に、その他を希望した者のうち半数（50.0%）が専門学校へ進み、27.3% は大学へ進学していた。

表3 男女別進学者数 (人)

	男子	女子
大 学	267	125 *
短 大	19	140 *
専門学校	119	143
就 職	53	53
そ の 他	20	15
計	478	476

* p < 0.001

表4 希望進路と進路先 (人)

		卒 業 後 進 路					計
		大学	短大	専門学校	就職	その他	
希望進路 (重複)	大 学	334	25	45	14	7	425
	短 大	20	114	17	8	1	160
	専 門	42	18	182	22	19	283
	就 職	16	15	20	68	9	128
	その他	6	2	11	1	2	22

表5 希望進路に対する進路先の割合

		卒 業 後 進 路					計
		大学	短大	専門学校	就職	その他	
希望進路 (重複)	大 学	78.6%	5.9%	10.6%	3.3%	1.6%	100.0%
	短 大	12.5%	71.3%	10.6%	5.0%	0.6%	100.0%
	専 門	14.8%	6.4%	64.3%	7.8%	6.7%	100.0%
	就 職	12.5%	11.7%	15.6%	53.1%	7.0%	100.0%
	その他	27.3%	9.1%	50.0%	4.5%	9.1%	100.0%

表6では、短期大学へ進学した者（159名）を専門分野ごとに集計した。家政系と幼児教育・保育系で88.7%を占め、全国の短期大学と同じ傾向を示している。

専門分野	人数	割合 (%)
人文科学系（文・心理・語学等）	2	1.3%
社会科学系（法・経済・経営・商等）	3	1.9%
家政系（食物・被服・住居等）	72	45.3%
教育系（教育・体育等）	0	0.0%
芸術系（美術・デザイン・音楽等）	6	3.8%
理学系（数学・物理・化学等）	0	0.0%
工学系（電子・情報・建築等）	1	0.6%
農学系（農業・酪農・獣医等）	0	0.0%
医療保健系（医・歯・薬・看護）	3	1.9%
社会福祉系（福祉・介護・精神保健等）	0	0.0%
幼児教育・保育系	69	43.4%
ビジネス系（秘書・医療事務等）	1	0.6%
その他	2	1.3%
	159	100.0%

4 考察

大学へ進学する高校生は男子が多く、短期大学への進学は女子が多いことが明らかとなった。このことから男子へは短期大学進学、女子へは大学進学を促すことも検討できると思われる。また、専門学校へ進学する高校生（27.5%）は、全国平均（17.0%）から比較すると、10.5ポイントも多いことが明らかとなったが、これについては、今後、詳細な検証が必要である。

希望進路をその他と選択した高校生については、進路が未定である者が多く、半数（50.0%）が専門学校へ進学、1/4以上（27.3%）が大学へ進学していることから、積極的な進路指導の必要があると考えられる。また、就職を希望した高校生のうち、約4割（39.8%）を進学させていることは、進路指導の成果として評価できると思われる。

本研究では、高校生に対して3年次の希望進路と卒業後の進路についての考察を行ったが、高校生自身の意志にかかわらない社会・経済的状況や地域性などは考慮できなかった。これらは高校生の進路選択に関する重要な要因となるため、今後は検討を要すると思われる。

参考文献

- 文部科学省（2013）平成25年度学校基本調査（速報値）の公表について
 日本私立学校振興・共済事業団（2012）平成24年度私立大学・短期大学等入試志願状況